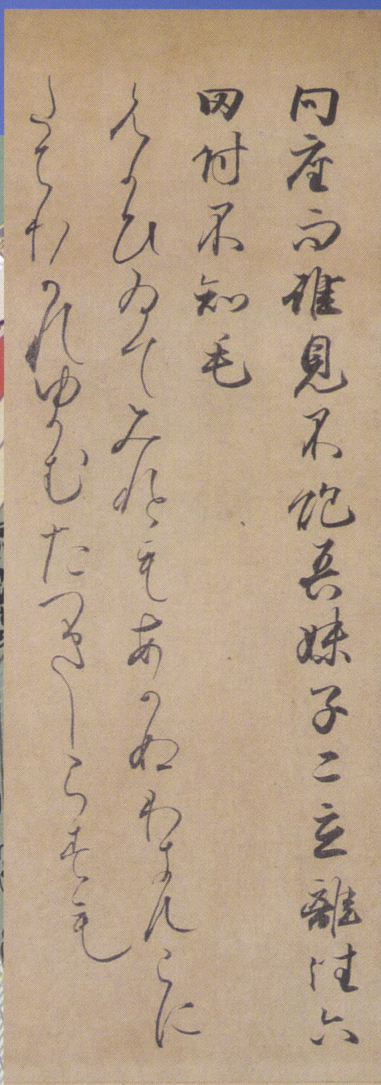


第35期特別記念展

万葉集と源氏物語展

松本春子・暎子、長佐古良子の世界



桂本『万葉集』断簡
「梅尾切」



『源氏物語絵巻』「柏木三」

令和6年12月5日(木)～7年3月31日(月)
(年末年始休み12月16日～1月6日)

小原道城書道美術館

札幌市中央区北2条西2丁目 札幌2・2ビル2階

入館料：300円（大学生以下無料） 休館日：月曜日



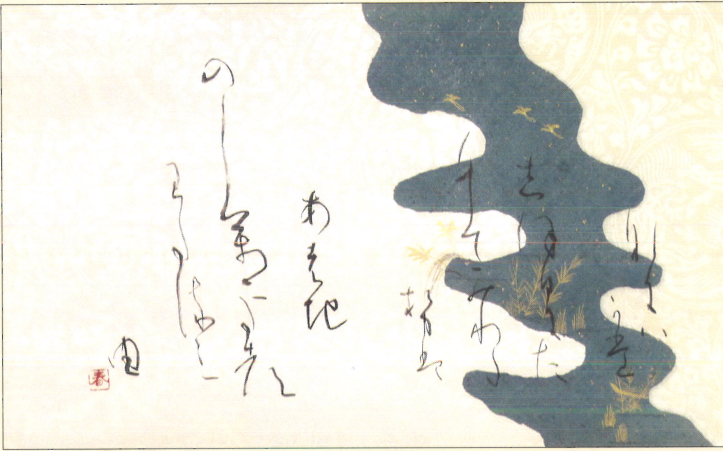
アートギャラリー北海道

奈良・平安の王朝時代は、圧倒的な中国文化の影響を受けつつも、その刺激を受けて国風文化が花開いた時代でした。特に文芸の分野では、漢字から仮名を作り出し、日本語の表記が可能になったこと、当時の人々の生活に和歌が根付いていたことなどから、『万葉集』が編まれ、以後勅選による和歌集が次々と編まれていきました。また和歌を挿入した物語も多数作成され、光源氏を主人公とする長編『源氏物語』は、その頂点ともいえるべきものでした。

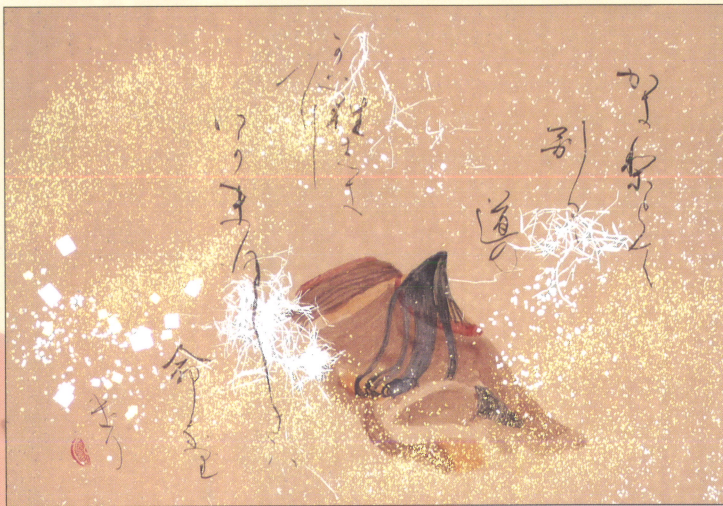
このような文芸上の諸作品は、優れた能書家の誕生と相まって、書の面においても、優美な書道を完成させ、今日もかな書の模範となっています。そして、このような文芸上のピークは、現代の書家達にとっても、様々な魅力や靈感を与え続けています。

今回ご紹介する松本春子は、『万葉集』の若々しく力強い和歌に惹かれ、『万葉集』を始めとする多くの和歌を、あるいは古典的にあるいは近代的に、柔らかな温かな書で表現しました。娘松本暎子はそのかな書を更に現代的に表現しようとしていました。また、長佐古良子は、『源氏物語』の濃密な世界に沈潜し、王朝の優美さを、かな書・料紙・表装を通じた総合的な表現と捕らえ、その再現に力を傾注しました。

王朝の古典『万葉集』など、そして『源氏物語』の歌が、これら三人の書家により、新たな表現を得てもたらされた世界を、ぜひお楽しみください。(なお、十二月十六日から二月六日まででは休館です。)



松本春子『万葉集』より「なにはかた…」



長佐古良子『源氏物語』より「かきりとて…」

こはらどうじょう 小原道城書道美術館

〒060-0002

札幌市中央区北2条西2丁目41

札幌2・2ビル2階

お問い合わせ先：011-552-2100

入館料：300円（大学生以下無料）

開館：午前10時～午後5時

休館：毎週月曜日

交通：JR札幌駅より徒歩5分、
地下鉄さっぽろ駅・大通駅より各徒歩5分

